

細腕なんて言わせない!!

288



「形にはまらない流派なんです。花は人々に潤い、優しさ、楽しさをも与えてくれるんです」と、自ら選んだ道について笑顔で語る馬上さん

潤い、優しさを与えてくれるのよ

「今も現役で教えています」と話す

馬上 応年さん

■華道「いけばな松風」参与
■いわき市小名浜字中明神町四五

電話／〇九〇―八二五八―八五九八

(田山応秋さん方)

「花に特別な興味はありませんでしたが、母親が時折、自宅で生けていたのを見ると、部屋中の雰囲気違ってきて…。それで、十五歳になったころから姉たちと一緒に、嫁入り道具の一つとして地元の教室に通い始めたんですよ」

笑顔を見せながら語るのは、馬上応年(本名・トシ子)さん(九二)。その華道歴はざっと七十年に及ぶ。

馬上さんの家は、小名浜で漁業を営んでいた。九人姉妹の七番目で、磐城女子高校を卒業後の戦時下、挺(てい)身隊の一員として横須賀の関連施設で一年半ほど事務職に就く。二人の兄たちは戦死、また姉たちはそれぞれの道を歩んでいたため、家業を継ぐことになり、二十二歳で結婚、三女に恵まれた。

これを機に、育児をしながら再び地元の華道教室に通っていたが、三十三歳のとき、すい臓を悪くして入院、治療。このころ、「いけばな松風(しようふう)」にひかれる。

馬上さんによると、国内の華道の団

体は大きく分け、ざっと五団体（流派）。「松風」はこのうちの一つで、一九二一年に創立され、二年後には百周年を迎える。全国に組織を広げ、海外にも支部を持つ、という。

使節団の一員で海外へも

この流派の特徴は、「盛り花を主体とし、色彩を重視するので全体の色合いは濃く、日本の住宅に見合った華道。形にはまらないところがいいんです」（馬上さん）。彼女の現在の地位は、流派ナンバー3の参与。

三十三歳で独り立ちした馬上さんは、弟子をとり、自宅で教える一方、地元中学校の課外活動として無給でボランティア、金融機関、企業、公民館などで指導を続け、一昨年までいわきの支部

長、華道連盟会長も兼任していた。

これまでに教えたのは市内外の主婦、OLら女性を中心にざっと三百人以上。二十〜五十年と長く指導を受けている生徒も多く、皆伝や総司などの資格を取得し、現在、指導者

として独立、活躍中の生徒は八十人余。こうした歩みの中、流派の代表として華道使節団に加わり、アメリカ、香港、台湾などの海外で華道の普及にも努めてきた。そんな馬上さんは「花」ばかりではなく、礼儀作法も重視し、女性としてのたしなみ、言葉遣いなど、古来文化も併せて指導。といっても上から



目線はナシ。生真面目さが馬上さんの生活信条の一つでもあるが、当初習っていた流派から「転向」した折は心を痛めたこともあったようだ。

娘三人ともこの道にかかわり、今は近くに住む次女の田山応秋（真澄）さんと同支部長のバトンを渡した馬上さんは、「私はね、今は補佐なのよ」と笑顔を見せつつも週に数回は自宅ですっかり指導を行っている、という。

若い人との外食の際にはピザ、ステーキ類も平らげ、暇を見ては庭の草むしりなどで健康維持に励んでいる馬上さんは、「花はね、人生に潤い、優しさを、楽しみを与えてくれます」と語りながら、「今の世の中、いろいろ考えはありますね。政治？ しつかりやってください！」と強調して表情を一気に緩めた。



「私、今は補佐なんです」

華道歴70年、生徒数ざっと300人余も

プロフィール

もうえ・おうねん

1926(大正15)年10月13日、小名浜生まれ。「私、花の中では白ユリが好きなのよ」と話す馬上さん、50、60代のころ大手術もし、体調を壊したが、今はかくしゃくとし、「元気よ、丈夫です、花があるから」。耳はすこし遠くなってきたものの、「数字、記憶力は昔と変わりません」(応秋さん)。得意な料理は「魚料理ですね」。血液型はAB型

■お知らせ=このコーナーでは、自ら選んだ仕事に、あるいはその人生においてひた向きに励み、努めている女性を紹介しています。情報をお寄せください。

※このコーナーは隔月掲載です。

TSUTOMU TAKAHASHI 高橋 勉 油彩展



◆会期 令和元年6月27日(木)~7月8日(月)

西河竹芸展

◆京都の老舗

◆会期 令和元年7月11日(木)~16日(火)

夏障子注文承ります



有限会社 **小野美術** ■営業時間/午前10時~午後6時(最終日は午後5時閉場)

いわき市平字中町22番地の2 Kビル1F

(TEL&FAX) **0246-35-0383**

(HP) <http://onbijutsu.jp>

(e-mail) onbijutsu@sirius.ocn.ne.jp